みんぱくフォーラム2014
東アジア展示があたらしくなりました!!
朝鮮半島の文化・中国地域の文化・日本の文化「沖縄のくらし」「多みんぞくニホン」の展示が新しくなってオープンしました!

■関連イベント

◆みんぱく映画会
「台湾映画鑑賞会――映画から台湾を知る」
上映の前には映画の内容に関連して台湾社会や歴史経験に関する解説をおこないます。
日時　5月6日（火・振休）
　13時30分～16時30分（13時開場）
会場　本館講堂（定員450名）
「超級大国民」
二二八事件とその後の政治的弾圧にむきあった台湾の人びと。
※申込不要、参加無料（要展示観覧券）
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布
※当日11時30分より東アジア展示場にて展示解説あり。

◆展示場クイズ「みんぱQ」
中国地域の文化編　5月27日（火）まで

企画展
「みんぱくおもちゃ博覧会――大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」
会期　5月15日（木）～8月5日（火）
国内の玩具コレクションの中でも最大規模のコレクション展示です。日本の玩具史の概要を知ることができます。

みんぱくワールドシネマ
「マイネーム・イズ・ハーン」
9・11テロ以降のアメリカにおけるイスラム教徒の葛藤と勇気を描いた作品を通して異文化に生きる人びとについて考えます。
日時　5月31日（土）13時～16時30分
　（12時30分開場）
会場　本館講堂（定員450名）
※申込不要、参加無料（要展示観覧券）
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布
※当日11時より南アジア展示場にて展示解説あり。

公開フォーラム　JICA委託事業
国立民族学博物館　博物館学コース
「世界の博物館2014」
4カ国10名の博物館専門家が、博物館の活動や課題を報告しながら、互いに問題点を共有し、検討します。
日時　5月31日（土）13時～17時15分
会場　本館第5セミナー室（70名）
※要事前申込、参加無料
申込締切　5月23日（金）必着（先着順）
お問い合わせ先
研究協力課国際協力係 博物館学コース事務局
電話　06・6878・8250

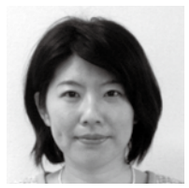
みんぱく創設40周年記念　カレッジシアター
「喜味家たまごの地球探究紀行」
研究者が撮影した世界各地の記録映像と研究者によるレクチャー。近鉄百貨店ならではの美味しいお弁当付き。
時間　11時～13時30分
会場　あべのハルカス近鉄本館「スペース9」
主催　産経新聞社
特別協力　国立民族学博物館、千里文化財団
※要事前申込（申込締切は各回開催日の1週間前）、参加費　各回4940円
5月14日（水）講師　福岡正太（本館 准教授）
霊と交流する楽器、ゴングの今
5月21日（水）講師　池谷和信（本館 教授）
美しさをもとめて――ビーズをめぐる人類の旅
5月28日（水）講師　野林厚志（本館 教授）
美麗島の手しごと――台湾の伝統刺繍

カレッジシアターみんぱく見学ツアー
新 中国地域の文化展示
日時　5月9日（金）11時～13時30分
集合場所　本館エントランスホール
講師　横山廣子（本館 准教授）
「中国ムスリム「回族」の信仰と暮らし――雲南省大理から」
※要事前申込、参加費2000円（観覧券、食事代含む）
お申し込み・お問い合わせ先
ウェーブ産経カレッジシアター係
電話　06・6633・9087

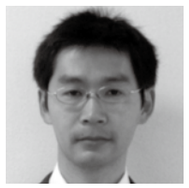
●研究公演、映画会等参加方法変更のお知らせ
4月から、研究公演、みんぱく映画会、みんぱくワールドシネマにご参加いただく際、当館の観覧券のご提示をお願いすることといたしました。
なお、みんぱくフリーパス、国立民族学博物館友の会会員証、キャンパスメンバーズの学生証等をお持ちの方は、ご提示いただくと、観覧券は不要です。

●無料観覧日のお知らせ
5月5日（月・祝）のこどもの日は、本館展示を無料で観覧いただけます。ただし自然文化園を通行される場合は、入園料が必要です。
※各イベントについてくわしくはホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時（土日祝を除く）です。

研究部の新メンバーのご紹介（4月1日付）
松尾瑞穂（まつおみずほ）准教授（先端人類科学研究部）
新潟国際情報大学情報文化学部准教授を経て現職。インドにおけるジェンダーと生殖医療技術の文化的受容について研究。主な著書に『ジェンダーとリプロダクションの人類学――インド農村社会における不妊を生きる女性たち』（昭和堂、2013年）などがある。



吉岡乾（よしおかのぼる）助教（民族社会研究部）
日本学術振興会特別研究員PDを経て現職。専門は記述言語学。ブルシャスキー語、ドマーキ語といった、パキスタン北部の言語をフィールド調査。論文「A reference grammar of Eastern Burushaski」にて、2012年に博士号を取得。



国立民族学博物館創設40周年記念
日本文化人類学会50周年記念
「イメージの力――国立民族学博物館コレクションにさぐる」
迫りくる力、驚きとの出会い、このアートを体験しよう
会期　6月9日（月）まで
会場　国立新美術館　企画展示室2E（東京）
＊
「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館――Attic Museum」
会期　5月6日（火・振休）まで
会場　埼玉県立歴史と民俗の博物館

みんぱくゼミナール

時間　13時30分～15時（13時開場）
会場　本館講堂
定員　450名（当日先着順）
参加費　無料（展示をご覧になる方は観覧料が必要です）

第432回　5月17日（土）
多みんぞくニホンのいま――特別展から10年
講師　庄司博史（本館 教授）

人種差別デモに対して催された反差別デモ（2013年大阪 藤井幸之介撮影）

2004年3月特別展「多みんぞくニホン」がみんぱくで開催されました。外国人の急増により単一民族社会といわれた日本の大きな変化を予兆する展示でした。10年後の今年3月本館展示に「多みんぞくニホン」のコーナーが設けられました。この間、経済不況、東日本大震災など多くの試練をへて日本は外国人にとってどのように変化したのでしょうか。

第433回　6月21日（土）
現在進行形の海外移民――韓国を去りゆく人びとの胸のうち
講師　太田心平（本館 准教授）

2013年にソウルで開かれた「移民博覧会」（金桂淵撮影）

朝鮮半島の外に暮らすコリアンは、いまや750万人以上。しかし、韓国において移民という行為は、けっして昔の話などではありません。今日でも、毎年、人口の0・3%以上もの人びとが、外国へと移民していきます。人びとはどうして韓国を去ろうとするのか、近年の調査研究をもとにお話しします。

みんぱくウィークエンド・サロン
研究者と話そう

会場　本館ナビひろば
時間　14時30分～15時30分
※申込不要、参加無料（要展示観覧券）
本館の研究者が来館された皆様の前に登場します!「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。どんどん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

5月4日（日）
話者　樫永真佐夫（本館 准教授）
話題　ベトナム、黒タイのディエンビエンフー60年
5月11日（日）
話者　横山廣子（本館 准教授）
話題　雲南省におけるキリスト教の展開
5月18日（日）
話者　南真木人（本館 准教授）
話題　在留ネパール人の現在
5月25日（日）
話者　杉本良男（本館 教授）
話題　インド映画の新時代

刊行物紹介

■小田博志、関雄二 編著
『平和の人類学』
法律文化社　2,400円（税抜）
草の根の人々がいかに「平和している」のか。この問いに人類学的にアプローチすることが本書の目的である。国家や国際社会とは異なった次元で、平和的なつながりを形成する人々の多様な能力を明らかにする。

■平井康之、藤智亮、野林厚志、真鍋徹、川窪伸光、三島美佐子 著
『知覚を刺激するミュージアム』
学芸出版社　2,300円（税抜）
体感し、思考したくなる展示と鑑賞の最前線へ。コミュニケーションが生まれ、知覚を刺激する場を創造する、これからのミュージアムのつくりかた。

友の会

国立民族学博物館友の会　電話 06-6877-8893（9時～17時、土日祝を除く）　FAX 06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/　　e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会講演会（大阪）
会場　本館第5セミナー室
定員　96名（当日先着順、会員証提示）
第432回　6月7日（土）14時～15時
【新展示関連】
多みんぞくの街・新大久保とハラールフード産業
講師　菅瀬晶子（本館 助教）
新大久保が多みんぞくの街となった歴史を振り返るとともに、近年もっとも活気のある「イスラーム横丁」に注目します。イスラームの教えに沿った食べ物であるハラールフード。これをめぐる産業は、この街でいかにして花開いたのでしょうか。ハラールフードのサンプルを手にとりながらお話しします。
※講演会終了後、講師をまじえた1時間程度の懇談会をおこないます。
第433回　7月5日（土）14時～15時
【新展示関連】
ウチナンチューと教育
講師　日高真吾（本館 准教授）
　呉屋淳子（本館 機関研究員）

東京講演会
会場　モンベル渋谷店5Fサロン
定員　60名（要申込）※一般の方も参加可能です。
第109回　6月28日（土）14時～15時
梅棹忠夫のモンゴル調査をたどる
講師　小長谷有紀（人間文化研究機構 理事、本館 教授）
現在、民博では梅棹忠夫ののこした資料を整理し、梅棹アーカイブズとして公開する作業を進めています。なかでもモンゴル調査は、彼にとって特別な意味をもつものでした。克明な記録の数々を整理する楽しさ、その調査ルートを実際にたどった旅の途上での出来事をお話しします。併せて梅棹のフィールドノートのレプリカもお見せします。
※講演会終了後、講師をまじえた1時間程度の懇談会をおこないます。

第84回民族学研修の旅
梅棹忠夫のモンゴル調査をたどる旅――中国内モンゴルの草原と史跡をゆく
9月8日（月）～14日（日）　7日間
※旅の詳細は「友の会」までお尋ねください。

※国立民族学博物館ミュージアム・ショップの記事は、表紙うらに移りました。